

MyStars 通信

No.35

June 2012



『MyStars通信』35号ができましたのでお送りします。今年は前半に
続き、後半も天文現象が目白押しですので十分に楽しんでください。

鳥居の中の月と金星

今年、3月から4月にかけて金星、木星と月の接近が見られました。数年ごとに見られる現象ではありますが、せっかくだからと晴れた日はできるだけ撮影しました。ちょっと変わったアングルはないかと思って、天文台の下の海岸にある『金比羅神社』の鳥居と金星と月で撮ってみました。これまでも色々撮っていますが、撮りたい天体は勤務時間の関係でなかなかタイミングが合いません。

金比羅神社は、香川県仲多度郡琴平町の金刀比羅宮を総本宮とする神社ですが、何かの縁があったのか、金刀比羅神社の御札が流れ着いたため、その場所に祠が造られました。

3月26日に金星と月が最接近だったのですが、天候が悪く翌27日に撮影しました。金比羅様は海の神様だそうですが、月(月の女神Luna)と金星(美の女神Venus)が訪ねてきた様な感じです。3月も終わりにになると、冬の星座は西に傾き日本海に沈みかけています。鳥居の中にあるのが月と金星で、月の右上にM45(すばる)があります。

綺羅星・星座ガイド

海蛇（うみへび）座

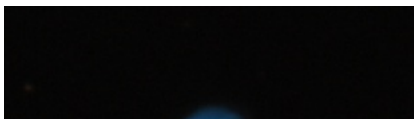
海蛇座は春の星座の一つで、蟹座の南から天秤座の西までクネクネと連なる長い星座です。この海蛇は頭が8つあり、日本の神話なら『八岐大蛇』になるでしょうか。口から毒



をはき出す不死身の怪物でしたが、ヘルクレスによって退治されました。

海蛇座は88星座の中で面積が最も大きく、長さも一番で、頭の先から尻尾の先まで上るのに6時間もかかります。星座を構成する星は明るい星が少なく、それ程目立ちませんが、一番明るいアルファルドという星は2

等星で、まわりに明るい星がないのでわりあい目立ちます。他には特に目を引くような星はありませんが、海蛇の真ん中あたりにNGC3242と言う星雲があります。寿命を終えた星が撒き散らしたガスで、その形や濃淡が木星に似ているところから“木星状星雲”と呼ばれています。小型の望遠鏡でも青白く丸い姿が分かりますが、大きな望遠鏡でそれらしく見えてきます。顔の右下、一角獣座との境界付近にあるM48という星団は、双眼鏡でも星の集まりがわかりますが、望遠鏡で見ると数10個の星が見えてきます。他にM68（球状星団）、M83（銀河）がありますが、低いので大きめの望遠鏡で見ると良いでしょう。



画架（が）座

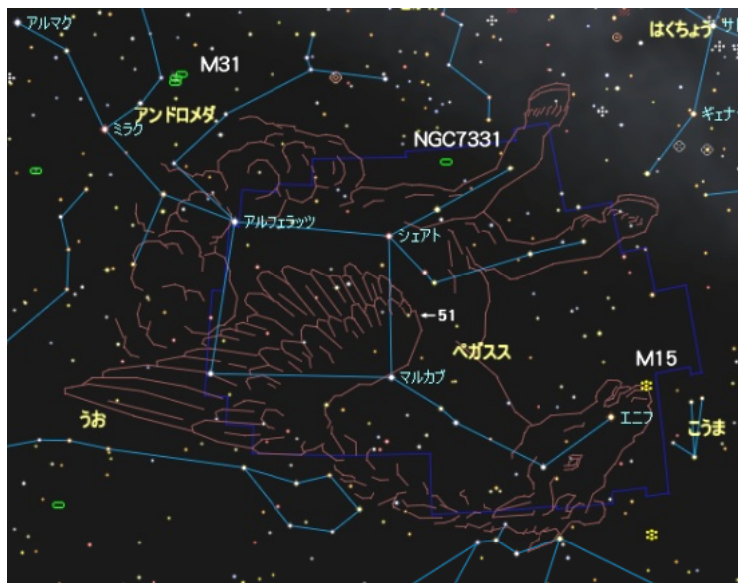


画架座ってあまり聞かない星座ですね。画架とは、絵描きさんが絵を描く時にカンバスを乗せる台のことです。画架座はラカイユが1752年につくった星座で、オリオン座のまっすぐ南にあり、南に低いため日本では全体を見ることができず、北海道からは全く見られません。

画架座の東には全天でシリウスに次いで明るいうちゅうこつ座のカノープスという星があります。また、南には有名な大マゼラン銀河があります。こんな星々に囲まれた

星座ですが、画架座には一番明るい星でも3等星で、他には取り立てて目立つ星がなくちょっとさみしい中、一つ話題の星があります。ベータ星（図の矢印の星）ですが、1983年にベータ星のまわりにチリとガスからなる大きな円盤が発見されました。このような円盤は惑星ができる元になるもので、太陽系外惑星の存在が現実味を帯びてきた大発見でした。その後このチリの中に惑星が見つかり、惑星を持つ恒星は太陽だけではないという空想の世界が現実になりました。その後宇宙のあちこちに600個以上の太陽系外惑星が見つっています。

ペガサス座

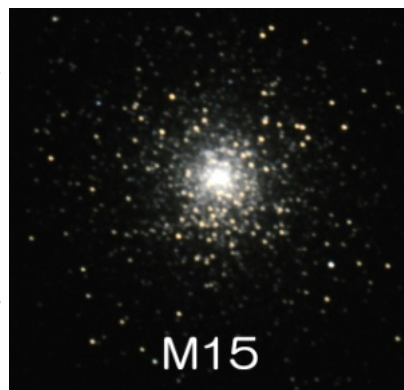


ペガサス座は、プトレマイオスがつくった古い星座の一つで、ギリシャ神話にも出ている“翼の生えた馬”の星座です。

秋の星座は明るい星が少なく、ぱっと見目立つ星座が少ないのですが、ペガサス座は四角く並ぶ4個の星が見つけやすく、“秋の四辺形”として夏の大三角や冬の大三角と同じように扱われます。なお、左上のアルフェラッツという星はペガサス座の星ではなく、隣のアンドロメダ座からの借り物です。四角の辺をのぼすと色々

な星に届きます。たとえば“縦の辺を北へのぼすと北極星”、“下の辺を右にのぼすとわし座のアルタイル”、“左の辺の長さ分を下にのぼすと春分点”などを見つけることができます。星座絵を見ると後ろ半分が雲に隠れて見えなくなっていますが、もし、全身を現すと大変大きな星座になってしまうため、雲の中から出てきたような姿になったと推察されます。

ペガサス座の星は特に注目に値する星はないですが、話題性としては51番星でしょう。この星は太陽系から50光年ほどにある太陽に似た星ですが、1995年にこの星のまわりを回る惑星が発見されました。木星に似た惑星で51番星のまわりをわずか4.2日で回っています。これが直接見つかった最初の太陽系外惑星です。残念ながら望遠鏡で見てもこの惑星は見えません。



鼻先にM15という球状星団があります。数10万の星が丸くボールのように集まった星団で、小型の望遠鏡ではぼやけた星のように見えますが、大きな望遠鏡では星がぎっしりと集まった様子が見られます。球状星団は年齢が100億歳を超える年老いた星の集団です。

「Mystars通信」の天文図はStellaNavigator9(AstroArts)を使用しています

綺羅星列伝

今回は2遍ご覧ください。皆さんの星物語よろしくお願いします。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : Star Yamaguchi Kurumi

8番目の孫の誕生日にマイスターズ宣言の企画を知ったのは何という幸運でしょう。早速応募して申し込み、その登録証が昨日送られてきました。娘夫婦に渡したところ、たいへん喜んでくれました。送付の中にはその第2弾ともいべき「星の物語」寄稿の案内が入っており、また嬉しくなりました。私にも小さな星に関する思い出があったからです。

最初の思い出はずいぶん昔になります。結婚して子どももふたり生まれ、平穏な生活を送っていたのですが、私の願いは家族そろって教会に行くことでした。その当時わたしは日曜日に勤務する仕事に就いていたのです。

ある日わたしは札幌の街を歩いていました。日も暮れやがて空は群青色になり次第に暗くなり、やがて星が見えてきました。暫らくすると西の彼方から一つの星が光を放ちながら降りてくるように見えました。短い瞬間でしたが、それは流れ星のようではなく、上から下に向かって降りるような感じに見えました。数秒でしたが不思議な気持ちに囚われていました。何だかそのとき良い事が起こりそうに感じました。

そんなことがあって暫らく経ってから私は家族そろって教会にいけるようになったのです。仕事を変える決心をし、日曜日に休めるような職場に就くことができたのです。その後もう一回仕事を変えましたが、以来娘家族みなそろって教会に集い今日を迎えています。

もう一つの思い出は3年前の夏のことでした。私はもう一人の娘家族が住むアメリカユタ州に3ヶ月滞在しているときでした。娘の夫とボーイスカウト・キャンプに子供たちの付き添いとして参加しました。6日間テント生活をしたわけですが、一晩だけテントではなく、寝袋だけで夜を過ごすことになりました。標高2000メートルくらい、満天の星を仰ぐ体勢で眠りにつきました。でも背は痛く、寒さもありましたが、輝く星があまりに美しいせいもあって、とうとう一睡もしないまま朝を迎えたのです。夜空は天の川に沿って無数の星が輝き、その数の多さに驚きました。時々流れ星をいくつも見ました。そして夜間飛行機や人工衛星と思われる飛行物体も目にしました。時間はそれほど長いようには感じませんでした。いろいろなことを想像していたからだと思います。広大な宇宙、地球もその銀河系の中にあること、そしてなぜこの美しい地球上で人は争うのか、なぜこんなに多くの生き物が存在するのか、なぜ多くの星が存在するのか、などなどです。その時は夜空を独占してしまったような妙な満足感に浸っていました。これが2つ目の思い出です。

今でもそのときの情景が時々目に浮かびます。それ以来、星に対する愛着のようなものが心の奥に留まっていたのだと思います。ですから今度の機会の訪れは3つ目の思い出の始まりでもあるように感じています。つまり私の星物語は続いており、孫に引き継がれていくような気がしているのです。

いつか孫が大きくなり、自分の星を確かめる機会があると信じています。その時私は確実に地球という星から離れています。次の世界へ旅立っているのです。宗教でいう来世です。歌の文句にある、お墓の中にはいません。きっとドラゴン座の命名の星にいます。初山別の天文台できっと確認することが出来ると思います。人はみな永遠の存在であることを信じています。ですから悲しみはしばしのこと、また家族は永遠でふたたび会うことができるという希望があります。星物語は永遠に続くのです。

愛する来実よ、あなたの名は未来に向かって実を結ぶようにと両親の願いがこめられています。そして家族よ、各々自分の人生の物語の主人公として望みを育て、それぞれの物語を完成させて欲しいと願っています。

2012・2・1

祖父 より

星の名前 : ORIVE / COOKIE

オリーブもクッキーも私たちの愛するネコです。大好きだった2匹はそれぞれ事故と病気で亡くなりました。

死んでしまったときはそれはそれは大変でした。何日も私たちは思い出す度、涙に暮れていました。いまでも『思い出すと涙が出ちゃう』と次女は言います。クッキーは次女が、トラバさみに挟まれて啼いていたところを拾ってきたのです。

私たちとネコとの出会いはこんな事から始まりました。長男が小学5年生の頃です。誰かが拾った子猫を教室に持ってきました。もらい手を子どもたちが探していたのですが家族の反対があったりして何日かは教室で飼われていました。息子もお父さんにおねだりしていたのですが、なにせネコだけは大嫌いと言っていましたから絶対に無理だろうと思っていました。息子は学校へ行く前にお父さんに手紙を書きました。僕が面倒見るからおねがい・・・と。それを見たお父さんのつぶやきが決定的な一言になったのです。『飼ってやらんとだめかな～』。

その後いろんなエピソードがあり今キャンディとミルクの2匹がいます。今、子どもたちはみんな就職して帰りも遅く、たまの休みも友だちと出かけ家にはいません。お父さんはネコが時々話し相手になり、出かけるとき帰ってきたとき真っ先に心配するのはキャンディとミルクのことです。私たち親は受験勉強の子どもたちをネコに見守ってもらいました。時々じゃまもしていたようですが・・・。私たち家族の一員であり、哀しいときもいつも側にいてくれる友だちでもあります。

いつまでも元気でいてほしいと願っています。

こちら情報室

○天文情報（6月～11月）

流星・彗星

- みずがめ座流星群（7/15～8/20）

いくつもの放射点を持つ流星群で、数は多くありませんが、7月25日ころから8月15日ころまで見られます。はっきりしたピークはありません。

- ペルセウス座流星群（7/20～8/20）

夏休み中に最も活発な流星群です。今年のピークは12日21時ころと予想されています。極大をはさんで10～15日は多くみられるでしょう。

- 10月のりゅう座流星群（ジャコビニ流星群、10/8）

ジャコビニ・チンナー彗星の回帰に伴ってみられる流星群で、去年はヨーロッパ方面で活発な活動が見られました。今年のピークは10月8日20時ころと予想されていますが、放射点は北西の空にあります。。

- オリオン座流星群（10/10～11/5）

10月21日ころ極大になる流星群です。見られるのは概ね21時から明け方にかけてです。

- しし座流星群（11/5～11/25）

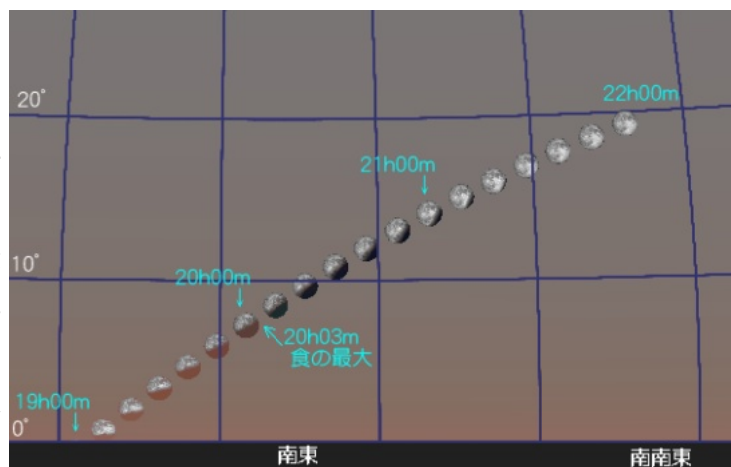
しし座が上がってくるのは23時過ぎですが、今年のピークは17日19時ころと予想されているので、あまり多くは期待できませんが見てみましょう。

彗星を見よう

特に目を引く彗星はありません。新しい彗星が発見されて明るくなることもあるので、発見のニュースを期待しましょう。

日食・月食・星食

- 6月4日の夕方、部分月食が全国で見られます。太陽が沈むと東の空に月が上がってきますが、その時月は少し欠けています（東日本の東が開けた場所では月が出てから欠け始める）。19時20分に欠け始め、20時03分に最大になり月の3分の1ほどが欠けて見え、21時07分に終わります。ちょうど夕食が終わるところからなので、最後まで見てみましょう。



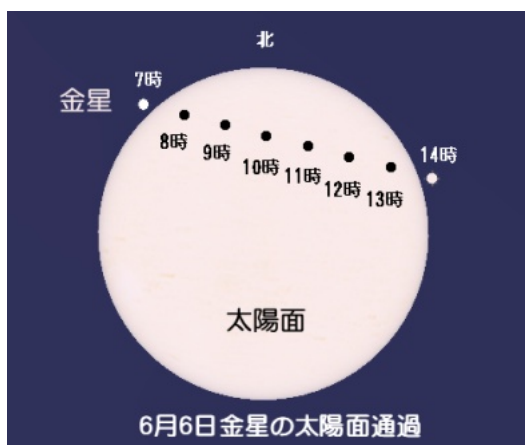
- 6月6日の7時10分から13時47分まで、金星が太陽の前を通る“金星の太陽面通過”が見られます。滅多に見られない珍しい現象で、前回は2004年に見られましたが、次回

は105年後の2117年です。観測方法は日食と同じで、日食メガネで太陽を見ると金星が黒い点のように見えます。望遠鏡ならもっと大きく見えますが、見る時は太陽観測の経験者といっしょに見ましょう。**望遠鏡を直接のぞくことは大変危険ですので、絶対にしないで下さい。**

- 8月14日の夜明け前に、月が金星をかくす“金星食”が沖縄の一部を除く全国で見られます。月は三日月のような形で、金星は半月形に見えます。望遠鏡で見ると金星が月の明るいところからゆっくり吸い込まれ、暗い部分から出てきます。食の時刻は地域によって異なりますが、福岡の例ですと、02時42分に金星は月の下からかくされ、03時27分に月の右に出てきます。どちらも北の地方ほど遅くなります。見られる時刻が明け方というより夜中過ぎといった方が良いでしょう。なお、那覇では月のふちギリギリを金星が通るため、金星が半分だけ食になる面白い光景が見られます。

- 11月14日に皆既日食が見られます。と言っても日本ではなくオーストラリア北部のことです。ほとんどが南太平洋上ですが、陸上ではオーストラリアのケアンズを通ります。有名な観光地ですので旅行のついでにご覧になるのが宜しいかと。

- 11月28日に半影月食が見られます。月食というと月が欠ける姿を想像しますが、半影月食は月が地球の影の薄い部分に入るため、本影に近いところ（月の上の方）が少し暗い程度です。真夜中のことですから、就寝前にちょっとながめると良いでしょう。



惑星

- 水星：7月1日と10月27日は夕方の西空で、8月16日は明け方の東空で最大離隔となり見やすくなります。

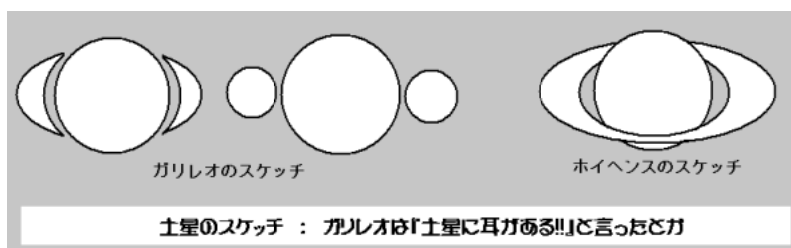
- 金星：6月6日に太陽と地球の間に入る内合で、以後明け方の東の空に見えます。7月13日に最大光度となり、8月15日に最大離隔になります。

- 火星：3月5日の接近から日経ちずいぶん小さくなってしまいました。次に接近する2014年まで一休みです。

- 木星：明け方の空に見えています。12月3日におうし座で接近しますがそれまでしばらく休みです。なお、7月15日の正午過ぎに木星食が見られますが、日中のことなので観測はむずかしいでしょう。

- 土星：おとめ座のスピカの近くにあり、夏休みが終わるまで一番見やすい惑星です。低いのを我慢すれば9月中も見ることには可能です。10月26日に太陽の向こう側（合）になり、しばらく休みです。環の開き具合はちょうど良く土星らしい姿が見られます。

- **天王星**：9月29日にうお座で接近（衝）して見やすくなりますが、望遠鏡で見ても小さく丸く見えるだけです。
- **海王星**：8月25日にみずがめ座で接近（衝）します。天王星よりさらに小さいため望遠鏡で見ても普通の星とあまり変わりませんが、機会があったら見てみましょう。



[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mailどちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

「My Stars 通信」の送付について、登録番号8940までの方は次号よりホームページ上でご覧ください。なお、インターネット利用環境のない方、すでに郵送希望のお申し出をいただいている方につきましては、今後とも郵送することで考えておりますので、希望者にはご一報いただきたくお願いします。

~~~~~

#### [編集後記]

2012年4月末現在の登録者数は8938名です。

昨年の地震以後、各地の原発が停止を余儀なくされています。この夏は電力不足になることが考えられますので、創意と工夫で節約に努めましょう。

この冬は寒かったですね・・・と言いたいところですが、ここ数年が異常に暑かっただけで、普通にもどったものと思っています。でも大雪が降ってなかなか解けないと思っていたら、4月には暖気がやってきて一気に解けだし、洪水や土砂災害が出たところもあったようです。初山別では大きな被害はありませんが、土砂崩れや洪水、田畑の流出などの被害が出たところもありました。

星の世界では皆既月食や火星の接近、金環日食があり、6月以降も部分月食、金星の太陽面通過、ペルセウス座流星群、金星食など楽しみな天文ショーが目白押しです。

( K )

|           |                                                                                                              |                             |                    |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------|
| 編集・発行     | しょさんべつ天文台                                                                                                    | 〒078-4431                   | 北海道苫前郡初山別村字豊岬153-7 |
| 天文台ホームページ | URL= <a href="http://www.hokkai.or.jp/shosanbe/index1.html">http://www.hokkai.or.jp/shosanbe/index1.html</a> |                             |                    |
| E-Mail    | 教育委員会                                                                                                        | shkyoiku@saturn.plala.or.jp |                    |
|           | しょさんべつ天文台                                                                                                    | shosanbe@hokkai.or.jp       |                    |